児玉先生、ありがとうございました。このシンポ (前田) ジウムの最後に、またまとめさせていただきます。本当にあ りがとうございました。

次に、被爆者医療と放射線の人体への影響を研究されてい る広島大学原医研の田代聡所長から、原爆放射線医科学研究 所の取り組みと今後の展望について、お話を頂くことになっ ております。よろしくお願いいたします。

(Maeda)

Thank you very much, Dr. Kodama. I will summarize your presentation at the end of this symposium. Thank

The next speaker is Dr. Satoshi Tashiro, Director of Hiroshima University's Research Institute for Radiation Biology and Medicine, who is studying hibakusha medical care and the effects of radiation on the human body. He will speak about the institute's initiatives and outlook. Dr. Tashiro, please.

広島大学原爆放射線医科学研究所 所長 田代聡

原爆放射線医科学研究所の取り組みと 今後の展望

Director, Research Institute for Radiation Biology and Medicine at Hiroshima University (RIRBM)

## Satoshi Tashiro

Efforts/activities by Hiroshima University's Research Institute for Radiation Biology and Medicine (RIRBM) and its future plans



皆さん、こんにちは。広島大学原爆 放射線医科学研究所の田代です。今回 は、このような機会をHICARE国際シ ンポジウムで与えていただき、ありが とうございます。本日は、原医研がこ れまで取り組んできたこと、そしてこ れからの展望についてお話をさせてい ただきたいと思います。

#2

広島大学原爆放射線医科学研究所 (通称:原医研)は、広島大学の霞 キャンパスにあります。霞キャンパス には広島大学病院もありますので、皆 さまもご存じのことかと思います。

被爆75年、HICER設立35年、福島事故10年 シンポジウム、シンポジウム第1部 2021年2月11日 オンライン

## 原爆放射線医科学研究所の取り組みと 今後の展望

田代 聡

広島大学原爆放射線医科学研究所



#### 国立大学法人 広島大学 原爆放射線医科学研究所(原医研)



広島大学霞キャンパス、文部科学省

Hello everyone. I am Satoshi Tashiro from the Research Institute for Radiation Biology and Medicine of Hiroshima University. I would like to extend my heartfelt gratitude to those involved for offering me an opportunity to speak at this HICARE International Symposium. Today, I would like to introduce our institute's past efforts and activities and its future plans.

The Research Institute for Radiation Biology and Medicine (RIRBM), Hiroshima University, is located on the Kasumi Campus. Hiroshima University Hospital is also located on the same campus, so I suppose many of you may know of the campus.

原医研のミッションは、「原子爆弾 その他の放射線による障害の治療およ び予防に関する学理ならびにその応用 の研究」となっております。原医研は 元々、原爆被爆者の医療のために設立 された研究所です。そこで原爆被爆者 の方の医療、それから白血病、がんの 医療、そして非常に強い被ばくをされ た方の医療開発などに取り組んでいま す。さらに、これらの医療を進めるた めには、非常に基礎的な研究が必要で す。そこで、放射線生物学、放射線医 科学の基礎研究も進めております。

そして、もう一つ重要なミッション は、これまでに蓄積された原爆被爆者 の方の医療に関するさまざまな資料で す。この資料をきちんと保管し、管理 していくというミッションが与えられ ています。このような資料の中には貴 重なデータベースなども存在していま す。

原医研は、HICAREの設立時からの メンバーであり、海外からの被ばく量 についての研修生の受け入れ、そして 専門家の派遣、講演会なども行ってい ます。最近は、IAEAとHICAREとの共 同で、緊急被ばく医療に関する研修、 放射線の生物学的影響評価に関する研 修などを行っています。右の下は、昨 年2月に開催された研修会からの写真 です。アジア、中近東からの参加者も 迎えています。これはコロナ感染拡大 直前に開催されたものでした。



One of the RIRBM's missions is to promote distinguished research on the biological effects of radiation and their application to the treatment and prevention of health disorders induced by A-bombs and radiation. The RIRBM was originally founded as an institute for medical treatment for A-bomb survivors, so it has mainly been engaged in providing A-bomb survivors with medical treatment developing treatment leukemia and cancer patients and heavily irradiated casualties. In addition, advancing these medical treatments requires very basic research. Therefore, we also pursue basic research for radiation biology and medicine.

Another important mission assigned to the RIRBM is to properly preserve and manage various medical records and biomedical materials on A-bomb victims and survivors. Some of these materials constitute valuable databases.

HICAREと原爆放射線医科学研究所 IAEAとの協働



As an original member of HICARE, the RIRBM also accepts international trainees in radiation dose measurement, sends experts in this field, and holds lectures. It has recently been providing training in radiation emergency medicine and assessment of the biological impacts of radiation in cooperation with the IAEA and HICARE. The photos in the lower right of the slide show scenes from a training program held in 2020. February We accept participants from Asian and Middle Eastern countries as well. This program was held immediately before the spread of the COVID-19 pandemic.

それでは、今から原医研のこれまでの取り組みと今後の展望ということで、まず最初に放射線災害医療についての取り組みを、そしてその次は放射線障害医療研究についてのお話をして、最後に次の世代へこれまでの原医研でやってきたことをどうやってつないでいくのかという、被爆医療アーカイブを中心とした取り組みについてお話ししたいと思います。

#### 原爆放射線医科学研究所の取り組みと 今後の展望

- · 放射線災害医療
- · 放射線障害医療研究
- ・次世代への取り組み(被爆医療アーカイブ)

**RIKBM** 

#5

Now, let me go into my subject today: the RIRBM's past efforts and activities and its future plans. I will explain our efforts and activities in radiation casualty medicine first, and then in radiation biological research. Finally, I will speak on our plans to hand down the RIRBM's past achievements to the next generation, focusing especially on the plan to build a Medical Archive on A-bomb Victims and Survivors.

#6

まず、放射線災害医療についてです。

#### 原爆放射線医科学研究所の取り組みと 今後の展望

- ・放射線災害医療
- · 放射線障害医療研究
- ・次世代への取り組み(被爆医療アーカイブ)

RI RBM

#6

The first topic is radiation casualty medicine.

#7

原医研は、被爆者のための医療、医療開発を目的に1961年に広島大学に設立されました。写真は当時の原医研の外観です。現在の霞キャンパスに入ってすぐ右側のところにありました。

## 原爆放射能医学研究所

原無統制版目学研究がよく

(場とで展開学列のよう。

場所を行われるのようで表情

第700年後期で列のはます。

第700年後期で対したが、200年

第700年後期で対した。

第700年後期で対した。

第700年後期が対かりなした。

100年度日本のは、100年度日本のは

100年度日本のは、100年度日本のは

100年度日本のは、100年度日本のは

100年度日本のは、100年度日本のは

100年度日本のは、100年度日本のは

100年度日本のは

1

(附属被ばく資料調査解析部 久保田明子助者

#7 The RIRBM founded was Hiroshima University in 1961 to provide and develop medical treatments for A-bomb survivors. The photo shows the appearance of the RIRBM building at the time of its foundation. It was located immediately to the right of the gate of the present-day Kasumi Campus.

1961年に、原医研はその前身、原 爆放射能医学研究所として設置されま した。この研究所の特色は、基礎的な 研究をする部門、社会学的な研究をす る部門に加えて臨床、すなわち血液内 科、そして腫瘍外科という臨床の科が 設置されているところにあります。

そして、研究所全体を挙げて被ばく 者のための医療開発に取り組んでいます。2002年に原爆放射能医学研究所 から原爆放射線医科学研究所と改称し、 現在の科学の進歩に合わせた改組を 行っています。

#9

広島大学は、平成16年に地域の三次 被ばく医療機関に設定され、緊急被ば く医療体制の整備事業を実施してきま した。広島大学は、西日本ブロック唯 一の三次被ばく医療機関であり、原医 研、大学病院などが連携し、その役割 を果たす責務があります。



## #10

このため、福島原発事故では、震災翌日の12日、当時、原医研の所長であった神谷先生を委員長として緊急被ばく対策委員会が広島大学に設置され、広島大学としての対応に当たりました。



#8

The RIRBM is unique in that it has clinical departments in internal and surgical medicine, that is, the Hematology Department and the Surgical Oncology Department, in addition to departments dedicated to basic research and sociological studies.

The entire institute is committed to developing medical treatments for A-bomb survivors. In 2002, its Japanese name was changed. The institute has also been reorganized to conform to current scientific progress.

## 三次被ばく医療拠点としての広島大学の役割



#9

Since being designated as the local medical institution in charge of medical treatment for tertiary irradiated casualties in 2004, Hiroshima University has implemented a project to establish a system for radiation emergency medicine. Now that Hiroshima University is the only medical institution in charge of tertiary medical treatment for irradiated casualties in western Japan, the Hiroshima University Hospital, and other in-house parties are responsible for collaborating to ensure that the University can play its role.

#### 広島大学緊急被ばく対策委員会の設置

3月111 (金) 人衆級の発生 (M9.0)
16:36 福島学・原子力発電所、
1号線、2号機の冷却機能の停止
・ (原子) 野急素機を与引
10:30 広島大学(警急機ばく阿金等員会) の設置
15:36 1号機で水乗爆発の発生
15:36 1号機で水乗爆発の発生

#10

To fulfill its responsibility in response to the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, Hiroshima University set up a Radiation Emergency Committee chaired by Dr. Kenji Kamiya, who was the RIRBM Director at that time, on March 12, 2011, the day after the Great East Japan Earthquake.

## #11-12

3月12日から37班、延べ1347名の 医師、放射線の専門家、放射線技師、 看護師、事務などを緊急被ばく医療支 援チームとして福島に派遣し、住民の 避難や一時立ち入り支援、さらにJヴィ レッジや福島第一原発の救急治療室な どのオペレーションを通して、現地対 策本部、オフサイトセンターの支援を 行いました。また、福島県立医科大学 の支援も、震災直後から行っています。

## 広島大学緊急被ばく医療支援チーム

#### 医師、専門家、放射線技師、看護師、事務で構成

- 1. 3月12日、広島大学繁急被ばく医療支援チーム第1班を派遣して以来 37班1.347人を派遣
- 原子力災害地助対策本部、Jヴィレッジ、福島県緊急被ぼく医療過終 会議(自治会館)で活動。現在の拠点は、福島県立医科大学







#### #11-12

From March 12, 2011 to the present, Hiroshima University sent a total of 1,347 members of 37 Radiation Emergency Medical Support Teams, including doctors, radiation experts, radiologists, nurses administrative staff. They supported the local emergency headquarters and the off-site center in evacuating local residents and allowing them to enter prohibited areas temporarily, and carrying out various operations in J-Village, the emergency room in the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, and other places. Moreover, Hiroshima University has also supported Fukushima Medical University since the immediate aftermath of the disaster.

# #13

神谷先生は、福島県放射線健康リスク管理アドバイザーとして放射線の健康リスクに関する講演会などを行うとともに、現在では福島で行われている県民健康調査に取り組まれています。

## 福島県「県民健康調査」

県民の健康を長期にわたり見守り、 将来にわたる健康増進につなげるために



MEDICAL UNIVERSITY

福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター

#### #13

Dr. Kamiya, as a Fukushima Prefecture-appointed advisor on radiation health risk management, has given lectures on health risks entailed by radiation and conducted other activities. He is also currently involved in an ongoing medical survey of citizens in Fukushima Prefecture.

## #14

次に、原医研で行われている研究に ついてお話をしたいと思います。

#### 原爆放射線医科学研究所の取り組みと 今後の展望

- ・放射線災害医療
- ・放射線障害医療研究
- ・次世代への取り組み(被爆医療アーカイブ)

RI RBM

#14 Next, I will explain research conducted at the RIRBM. #15-16

現在、原医研では、15研究分野、 12人の教授が活躍しています。複雑な 放射線の人体影響を明らかにするだけ でなく、新しい放射線に関する医療開 発を行うために、放射線についての生 物学や遺伝学の研究、病気から体を守 る免疫学の研究、そして数学的な学術 である統計・疫学を使った研究、さら には放射線の物理学の専門家もいます。 そして、特殊な顕微鏡を自分で開発し て幹細胞の研究をしている研究者もい ます。臨床に近いところでは、再生医 療、特に血管の再生医療の研究をして いる研究者、そして緊急被ばく医療に 携わっている教授もいます。また、大 学病院で血液内科、そして腫瘍外科を 担当しているのも原医研です。血液内 科では白血病をはじめとする血液の疾 患の診療に、腫瘍外科では肺がんなど 吸気疾患や乳がんの治療などに取り組 んでいます。

<b>医根状射線医科学研究系の研究</b> 会					
原爆放射線医科学研究所の研究室					
放射線障害機構研究部門			ゲノム障害医学研究センター		
明末の野	825	8584-7-F	研究の野	8829	研究4-0-ド
细胞体组制和	銀万田	放射線線(水、染色計算符、ゲノル修復機構、能力	飲料線ゲノム疾患	松地神田	直信医学、及色件恒常性、放射等感受性。
		机高次偏距, 生物学的绘整环旋点			一次成形、ゲル構業法、適位性小的位
疾患モデル解析	神沼 條	遺伝子改定マウス、ヒト疾患モデル	ゲノム時書病理	東幸仁	血管内皮根积、血管根板、Rio-associated
ゲノム発現情報	松瀬神之				Mare, pRES. SIDEMONE
			がん分子病感		血面学、分子生物学
放射線影響	O DESCRIPTION	PARRIE	分子発がん制御	神谷研二	放射線生物学、放射線及が4、放射線大響
TOTAL MESTS AN	BAT IN WITH	COPPE			区市, 在計量化を経営課
RESER	810	研究オーワード	放射線災害医療研究センター		
分子療学	川上男史	MET. HET			
計量生物	西水 保治	原療技術者、34-140元、健康影響、及射線差等。	MICOTY PREDITED'S	900	研究オーワード 会外の保険等と総合性の利益を使、協会
		生物統計、データサイエンス	PERSONANCE P	20101014	
<b>総量別定・評価</b>	保田油志	放射核的道、核繁評価、放射核27兆、健康/スツ評	<b>用例接货费用收益</b>	保格 仲之	野雑島、自由株野雑島 存物電気等機構、サル銀貨、菓子力な事業
		值, 福克牙克事法, 医进行学委员会		MH 17-2	
然到1股项套1548	餘木元		発 自選・推案合格		機・配合記さび開 込み料理的技能、第三年の第三、年の月です
			TEST SERVICE	7- 84.00	
THE RESERVE OF THE PERSON NAMED OF THE PERSON					インフォマティウス、仮線量放射線、セプラフィッ
附属被ばく資料調査解析部			原保外科	mm or t	511/5. 間幕系統総数, QOL PRO 外科機構学、会認度、機能、水底、中容機、
部長 古水 供泊			MIN 27144	MID 42 Y	
					下板、内部原下板、用的装下板、化学整点。
附属放射線先端医学実験施設 (%/48%)					放射器化学療法、角瘤療法、医調信子、
新設長 保田 改志				_	PET. /ficit?-b Utofi/ficit/S-
			関連が砂砂にく医療		
00/899					

#15-16

At the RIRBM, 12 professors currently work in the 15 research departments. In order not only to reveal the complex impacts of radiation on human bodies but also to develop new medical treatments concerning radiation, the professors conduct biological or genetic research on radiation, immunological research on how to protect organisms from diseases, mathematical research and statistical epidemiological approaches. They also include a radiation physicist and a stem cell specialist who has developed special microscopes. In the clinical field, the RIRBM has a professor engaged in regenerative medicine specifically aimed at regenerating blood vessels, and a professor involved in radiation emergency medicine. Furthermore, RIRBM departments are also in charge of hematology and surgical oncology at Hiroshima University Hospital. The Hematology Department is committed to treating blood diseases, including leukemia, the Surgical while Oncology Department is engaged mainly in treating respiratory diseases, such as lung cancer, and breast cancer.

## #17

腫瘍外科の岡田先生は、肺がんの手術のスーパードクター、凄腕ドクターとして、しばしばマスコミに取り上げられていますので、皆さんの中にもご存じの方がいらっしゃるのではないかと思います。



Professor Morihito Okada of the Surgical Oncology Department has often received media coverage as a super-doctor or wizard doctor in lung cancer operations, so I suppose some of you may know a fair

amount about him.

被爆者では、最初に白血病の症例が 増加していることが分かってきました。 このため、原医研でも鎌田七男名誉教 授を中心として、被爆者の白血病の研 究が精力的に行われてきました。

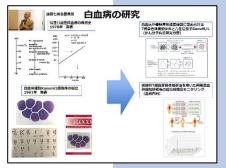


#18

The first finding from follow-up research on A-bomb survivors concerned an increase in the number of leukemia cases among them. Therefore, the RIRBM has also devoted energetic efforts to research on leukemia found in A-bomb survivors under the leadership of Professor Emeritus Nanao Kamada.

#19

この研究の流れは、現在でも新しい 分子生物学的手法を用いることにより、 白血病の原因遺伝子の究明、そして白 血病の治療開発などにつながっていま

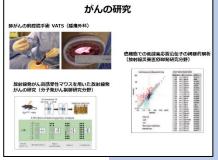


#19

This line of research has now led to efforts to identify genes that cause leukemia, and to develop treatments for leukemia through new approaches based on molecular biology.

#20

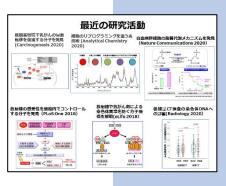
がんの研究、医療開発では、腫瘍外科で肺がんの胸腔鏡手術が進められています。そして、放射線発がん高感受性マウスと遺伝子改変マウスを用いることによって、放射線発がんのメカニズム研究が進められています。また、最新の遺伝子解析技術を用いることで、がんの遺伝子の解析を進めている研究室もあります。



#20

In the field of cancer research and cancer treatment development, the Surgical Oncology Department has developing heen thoracoscopic surgery for lung cancer. Research on the mechanism of radiation carcinogenesis is also under way using mice sensitive to radiation carcinogenesis and genetically modified mice. Moreover, the RIRBM also has a department that is analyzing cancer genes using the latest gene analysis technology.

先ほど紹介した研究以外でも、さま ざまな研究が原医研では進められてい ます。例えば、左の上からいきますと 乳がんの浸潤・転移を促進する分子の 研究、上の真ん中は新しい光を使った 解析技術を用いて細胞の中の状態の変 化を検出する方法の開発、上の右側に ありますが白血病幹細胞の脂質代謝メ カニズムの研究、そして下の左側には 放射線の感受性を細胞内でコントロー ルする分子の研究、下の真ん中は放射 線や抗がん剤による染色体異常を防ぐ 分子機構の研究、そして右下にあるの がCTでどのような染色体、DNAの傷が 誘導されてしまうのかという研究、こ のように、さまざまな形での放射線の 影響研究が研究所の中のそれぞれの分 野で行われております。



#### #21

In addition to the abovementioned research activities, various other research activities are conducted at the RIRBM. The slide shows some examples. The figure in the upper left of the slide explains research on that facilitate molecules infiltration and spread of breast cancer, while the upper middle figure illustrates the development of methods of detecting changes in the internal conditions of cells using a novel optical analysis technology. The upper right figure shows research on the mechanism of lipid metabolism in leukemia stem cells, while the lower left figure explains research on molecules that work in cells to control their sensitivity to radiation. The lower middle figure illustrates research on molecular mechanisms to prevent chromosome aberrations caused by radiation and anticancer drugs, while the lower right figure shows research on what kinds of injuries are induced in chromosomes and DNA by CT. As seen above, various research activities focusing on the impacts of radiation are conducted in various fields at the RIRBM.

# #22

最後に、次世代への取り組み、特に 被爆医療アーカイブについてのお話を させてください。

## 原爆放射線医科学研究所の取り組みと 今後の展望

- · 放射線災害医療
- ・放射線障害医療研究
- ・次世代への取り組み(被爆医療アーカイブ)

RI RBI

#### #22

Finally, let me explain our initiatives for the next generation, especially those to create a Medical Archive on A-bomb Victims and Survivors.

附属被ばく資料調査解析部には、被 ばく資料に関する紙の資料や病理標本 などの生体試料、そして物理的な線量 測定に用いられた物理資料が保存・管 理されています。これらの貴重な被ば く者医療についての試料を保管するだ けでなく、講演会や展示会を通して情 報発信も行っています。2017年には、 近距離被爆者についての講演会を鎌田 七男名誉教授に行っていただいており ます。しかし、原爆投下75年となり、 紙資料や病理標本も劣化が進んできま した。このため、現在、貴重な被爆者 医療に関する資料のデジタルアーカイ ブ化に取り組んでいます。ただ、資金 面が非常に厳しい現状というものがご ざいます。



#### #23

The RIRBM's Division of Radiation Information Registry preserves and manages documents on exposure to radiation, pathological specimens and other biological samples, and physical materials used for physical measurement of radiation doses. The RIRBM not only stores these valuable materials and specimens concerning medical treatments for irradiated casualties but also shares information by holding lectures and exhibitions. In FY2017, we had Professor Emeritus Nanao Kamada give a lecture on victims exposed to the atomic bombings at a short from the epicenter. However, over the period of 75 years since the atomic bombings, the documents and pathological specimens have gradually deteriorated. Therefore, we have striven to build a digital archive of valuable materials on medical treatments for A-bomb victims and survivors, despite having faced serious financial difficulties.

# #24

そこで、この厳しい現状を打破する ため、その第一歩として、米軍から返 還された病理標本のデジタル化を目的 として、昨年は新しい試みとしてクラ ウドファンディングを行わせていただ きました。



## #24

As our first step to break through the current severe financial situation, we made a new fundraising endeavor through crowdfunding last year with the aim of digitizing pathological specimens returned to us by the U.S. forces.

## #25

結果として、多くの方のご賛同を頂き、ご協力を得ることができました。 そして、目標額を上回るご援助を頂きました。ありがとうございました。

# 

## #25

Our endeavor resulted in support, cooperation and donations exceeding our target amount from many people. I would like to express my deep gratitude to those people.

原医研では、これから放射線障害医 療研究・開発をさらに進めていきたい と思います。その中には緊急被ばく医 療、そして放射線による発がんの研究、 あるいは、がんの治療研究開発、そし て重度の被ばく障害を受けた方のため の再生医療研究、そして、このような 技術を生かした新しい放射線医療の開 発に取り組んでいきたいと考えていま す。また、原医研で開発された新しい 技術を用いて、地域の企業と連携して 新しい産業をつくれればというふうに も考えております。そして、もう一つ 重要なこと、それは次世代への継承で す。被爆医療アーカイブをしっかりと つくって、これもやっていきたいと考 えています。

#### 原爆放射線医科学研究所のこれから

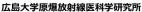
- 放射線障害医療研究・開発
  - ・緊急被ばく医療への貢献
  - ・放射線発がん研究、がん治療研究開発
  - ・再生医療研究
  - 新しい放射線医療開発
- ・新しい測定技術の開発
  - ・地域企業との連携
- ・次世代への継承(被爆医療アーカイブ)

#26

We at the RIRBM hope to further accelerate our research and development efforts in radiation biology and medicine from now on. These efforts will hopefully include in radiation emergency medicine, research and development of cancer treatments, research on regenerative medicine aimed at saving heavily irradiated casualties, and development of new radiation therapy using these technologies. We also hope to use new technologies developed at RIRBM to create a new industry in collaboration with local businesses. Another important task of ours is to hand down what our predecessors and we ourselves have achieved to the next generation. We hope to fulfill this task as well by building up a Medical Archive on A-bomb Victims and Survivors.

#27

この写真は、原医研の研究棟です。 多くの研究室がここに入っています。 左側には広島大学病院の病棟が見えて います。





#27

This photo shows the RIRBM's research building. This building houses many department offices. Seen on the left is Hiroshima University Hospital's ward building.

現在、研究棟の隣に実験棟が建築中 です。もうすぐ完成する予定です。原 医研では、これからこの新しい実験棟 で、放射線障害医療の新しい研究開発 に取り組んでいきます。今後ともご支 援のほど、よろしくお願いいたします。



#28

Next to the research building, a laboratory building is currently under construction and will be completed soon. We at the RIRBM will pursue new research and development endeavors in radiation biology and medicine. I look forward to your continued support.

ご静聴、ありがとうございました。

ktashiro@hiroshima-u.ac.ip

RI RBM

(前田) 田代先生、ありがとうございました。最後にまと めさせていただきます。

3番目ですが、HICAREによる専門家の国内派遣の例に、 東日本大震災の福島原発事故に際しての緊急被ばく医療支援 チームの派遣があります。福島県立医科大学、放射線災害医 療学講座教授の長谷川有史先生から、「ご恩返し一支援と教 訓を踏まえて」というタイトルでお話しいただきます。よろ しくお願いいたします。

(Maeda)

Director Tashiro, thank you very much. Let me summarize your speech later.

Next is the third speaker. HICARE's past initiatives to send experts in various areas in Japan include sending Radiation Emergency Medical Support Teams in response to the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. Professor Arifumi Hasegawa, Chair of the Department of Radiation Disaster Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, will speak under the title "Giving Back—In Light of Support and Lessons Learned."